

04 まちづくりの方針

1 まちづくりの方向性

目指す姿

アスナル金山の再整備や新たな劇場の整備とあわせ、交通結節点に相応しい都市機能の集積や多様な文化芸術に触れられるウォカブルなまちの形成を目指し、金山駅周辺地域全体の価値向上やブランディングを図ります。

■ 都市機能の集積

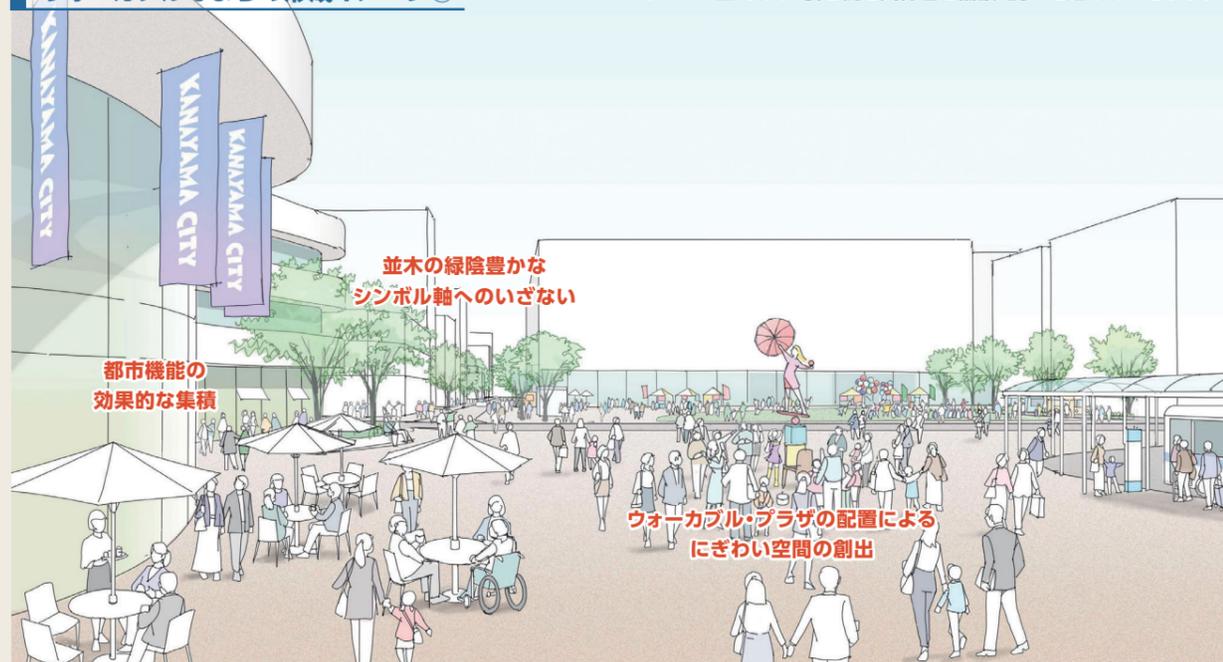
- 交通結節点である金山のポテンシャルを活用し、駅前に都市機能を効果的に集積させ、にぎわいや交流の更なる発展を図ります。
- 文化芸術と経済活動の融合を促し、金山の魅力向上を図ります。

■ 交通結節点としての機能強化

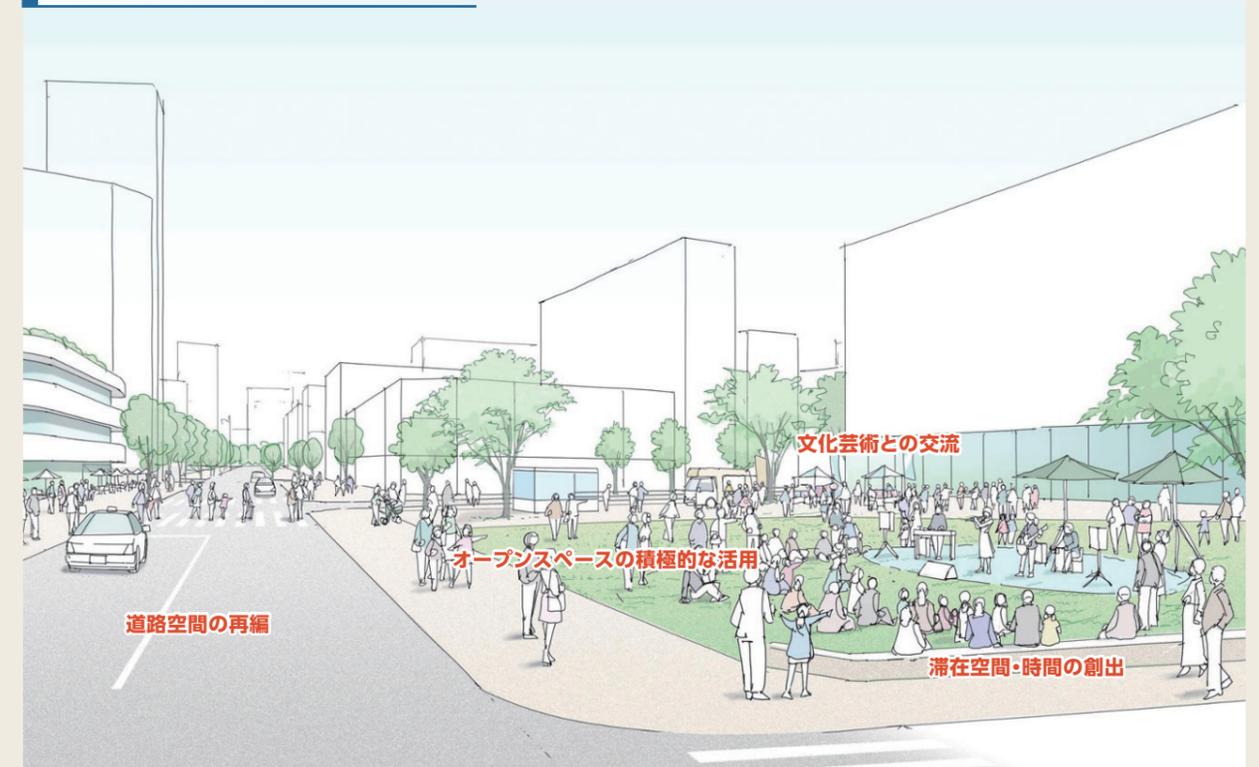
- 駅利用者の利便性向上等、交通結節点としての機能強化を図ります。
- 駅南北地区をつなぐ金山総合駅連絡通路橋は、リニューアルにより、高い乗換利便性に加え、情報発信機能やにぎわい交流機能の向上を図ります。
- 大規模地震や大雨による災害発生時には、帰宅困難者など幅広い対応が求められることから、地域防災力の強化を図ります。

ウォカブルなまちの形成イメージ①

※イメージ図であり、引き続き関係者と協議・調整を進めていきます。



ウォカブルなまちの形成イメージ②



※イメージ図であり、引き続き関係者と協議・調整を進めていきます。

■ ウォカブルなまちの形成

- 道路やオープンスペース等の都市基盤をウォカブルなまちに資する空間へ再編することにより、アスナル金山の持つ界限イメージを継承し、地域全体に拡大を図ります。
- オープンスペースは、市民活動やイベント等の様々な行動ができる空間として開放するなど積極的な活用を図ります。
- まちなかでくつろげる滞在空間・時間を持てる環境の創出を図ります。
- 沿道建物の低層部において、新たな発見や様々な活動・交流が生まれるよう機能更新の促進を図ります。
- オフィスワーカーが便利で快適に滞在でき、働く楽しさを感じられるまちなかづくりを行います。
- 熱田地区や堀川などの周辺の地域資源も意識した、回遊性向上につながるまちづくりを進めます。

■ 人・文化・芸術の交流創造

- 本市の文化芸術を象徴し、国内外から多くの人々が訪れる魅力的な空間となる新たな劇場を整備します。
- 新たな劇場の3ホールを核として、駅周辺の他の文化芸術施設や地域団体等と連携した面的な文化芸術施策を展開し、文化芸術の浸透を図ります。
- まちに開かれた新たな劇場とまちとの連続性を確保し、文化芸術との交流を育むことで金山らしさの発展・拡大を図ります。
- クリエイターやアーティストをはじめ創造的な活動を行う様々な人材が集い交流し、刺激し合う場の創出を図ります。



エリアの考え方

市有地の整備をより効果的なものとするため、駅南北地区の連携を強化し、駅周辺全体の回遊性・滞在性向上やにぎわいの創出を図ります。

1 アスナル金山エリア

- ・交通利便性を活かした、多様な人が集い楽しむ駅前のにぎわい交流拠点として、金山らしい都市機能を集積させた駅前複合施設を中心とした駅前空間を整備します。
- ・アスナル金山街区と向田町線北側街区において、金山総合駅と新たな劇場をつなぐ空間を形成します。
- ・市民会館街区南側道路の一部区間を廃道し、新たな劇場と一体的な空間創出を図ります。

3 駅南口エリア

- ・地域のにぎわい創出の取り組みが継続的に行われるよう、エリアマネジメントにより、地域と協働しながら適切な維持管理を目指します。

4 金山総合駅連絡通路橋

- ・乗換利便機能に加え駅南北地区のにぎわいをつなぐ施設として活用を図り、エリアマネジメントの展開を図ります。

2 古沢公園・市民会館エリア

- ・人と文化が行き交う文化芸術交流拠点を目指すため、まちに開かれた新たな劇場を整備します。
- ・古沢公園街区と市民会館街区の間を通る道路を廃道し、一街区化により新たな劇場と公園の一体的な利活用を図ることで、魅力あふれる空間を形成します。

ウォーカブル境界

- ・居心地が良く歩きたくなるまちなかを形成するため、公共空間に加え、沿道建物を含む地域全体のランドレベルのにぎわい創出により、快適に滞在できる境界を目指します。

※ 令和5年度末に滞在快適性等向上区域に設定
滞在快適性等向上区域とは、ウォーカブルな空間づくりの促進のため、歩道拡幅、公園の交流拠点整備、建物低層部のガラス張り化等、区域の快適性・魅力向上を図るための整備を重点的に行う区域

歩行者動線・自動車交通の考え方

歩行者動線

- ・歩行者動線の強化や滞在空間の創出により、ランドレベルの回遊性向上や周囲へのにじみだしを図ります。
- ・東雲東古渡町線をシンボル軸として位置づけ、金山駅北地区の新たなにぎわいの象徴とします。
- ・魅力的な景観形成に向け、駅から新たな劇場までの見通しを確保します。

自動車交通

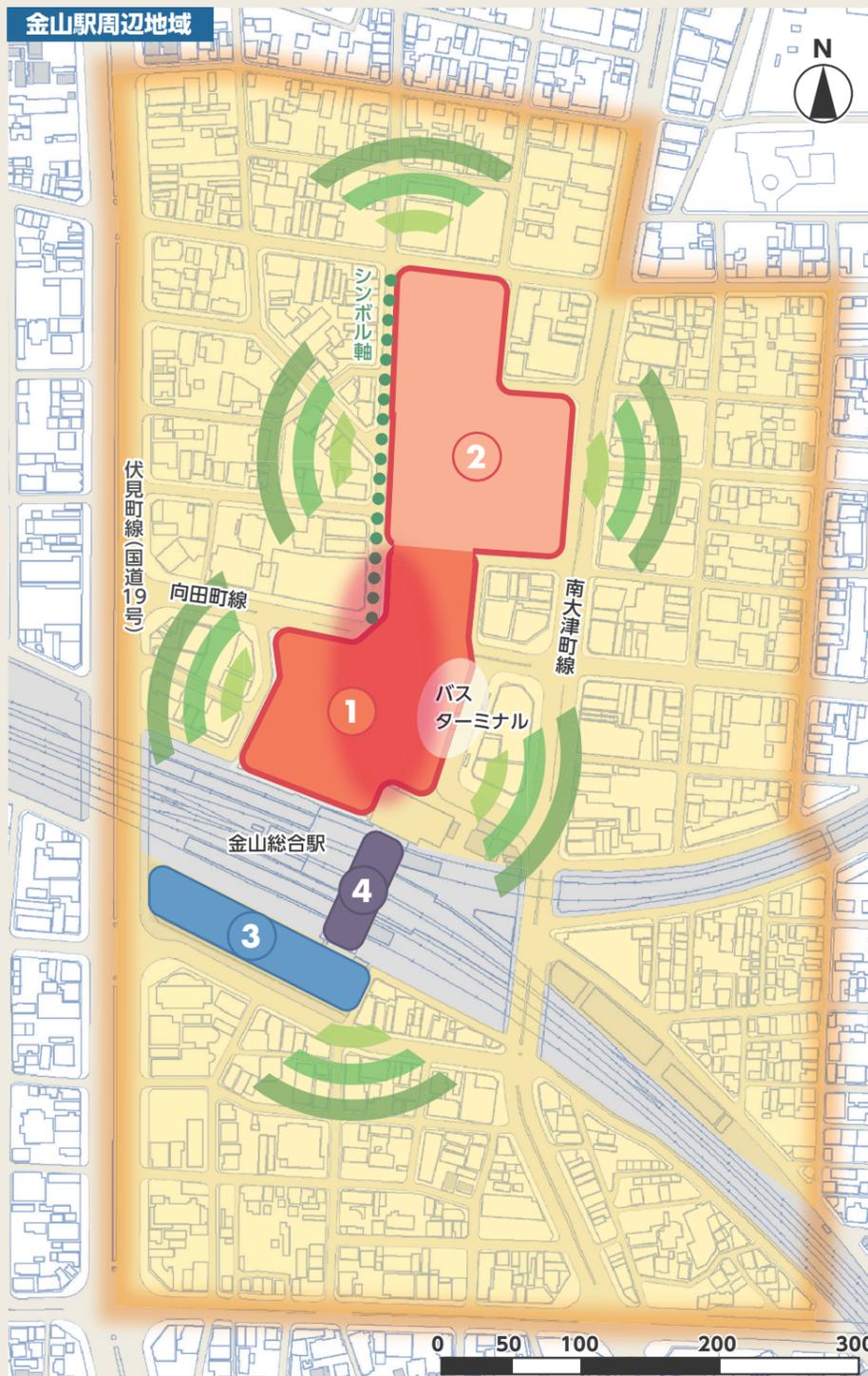
- ・ウォーカブルなまちの形成を見据えた適切な車両動線とします。
- ・交通結節点として公共交通の自動車動線に配慮し、利便性を確保します。
- ・金山駅周辺地域の駐車場機能については、公共交通機関利用者の利便性、周辺地域の商業集積の状況及び開発の事業手法を鑑みた対応を図ります。

まちのゾーニングイメージ

対象範囲

- ・整備を予定している市有地を中心に、その波及効果が及ぶと考えられる周辺を含めた範囲を対象とし、「金山駅周辺地域」と称します。

ゾーニングイメージ



1 アスナル金山エリア

商業・業務等機能や交通機能、文化芸術機能、交流創造機能を適切に整備

2 古沢公園・市民会館エリア

新たな劇場、オープンスペースを一体的に整備

3 駅南口エリア

4 金山総合駅連絡通路橋

ウォーカブル境界

※ 滞在快適性等向上区域

見通しの確保やウォーカブル空間の創出

凡例

歩行者動線の周囲へのにじみだし

2 実現に向けた進め方

■ ビジョンの共有

・誰もが集い楽しむ多種多様な交流の場を創出し、地域住民をはじめ来訪者にとって魅力的なまちとしていくため、地域住民、地元団体、民間企業、行政等と官民連携したまちづくりを進めるアクションプログラムを含む新たなビジョンを作成し、継続的に情報共有を図ります。

■ 官民連携手法の導入

- ・民間事業者のノウハウや資金を活用し、豊かな発想の民間提案を取り入れ、にぎわいあふれる魅力的なまちの形成を図ります。
- ・文化芸術に係る活動や団体・学校等と連携し、感性あふれる文化芸術交流拠点の形成を図ります。

■ エリアマネジメントの推進

・金山らしさや地域ニーズを踏まえ、公共空間や建物などを新たな魅力・価値を生み出す地域資源として利活用し、にぎわいの創出や回遊性の向上を図るため、多様な人々の交流を促す居心地が良く歩きたくなる空間の創出に向けたエリアマネジメントを推進します。

・まちづくりの担い手である地域住民や地元団体、都市再生推進法人等とのコミュニケーションを重視し、エリアマネジメント活動が継続されるよう、組織や連携の仕組みづくりを目指します。

※ エリアマネジメントとは、地域の価値を維持・向上させ、また新たな地域価値を創造するための住民・事業者等による絆をもとに行う主体的な取り組み

3 主な配慮すべき視点

■ 環境

・本市では快適な都市環境と自然が調和した都市を目指しており、金山駅周辺地域においても、まち全体の緑の量やその質の向上、ヒートアイランド対策等に資するグリーンインフラの取り組みや再生可能エネルギーの導入等のカーボンニュートラルの実現に向けた取り組み等により、持続可能な未来に向けて環境負荷が少ないまちづくりを行います。

<グリーンインフラ取り組み事例>



【出典】グリーンインフラ事例集(令和5年3月版 グリーンインフラ官民連携プラットフォーム 企画・広報部会)

■ 情報発信

- ・来訪者のSNS等でのまちの魅力発信による回遊性・滞在性の向上に資する仕掛けづくりを行います。
- ・多様化する来訪者のニーズに対応するため、デジタル技術等の導入により地域の魅力をさらに引き出す取り組みを進めます。

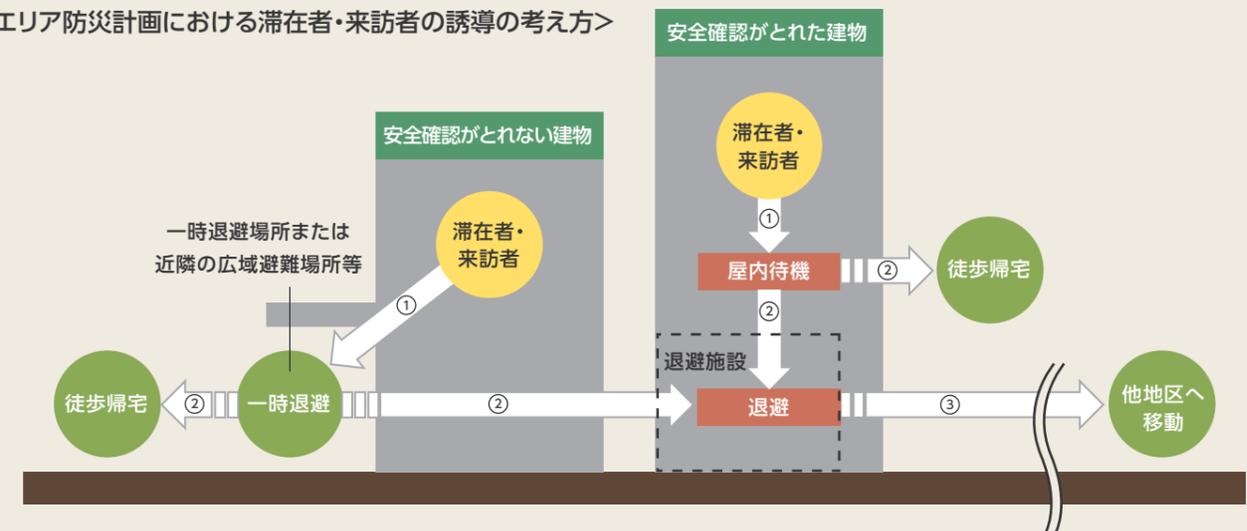


【出典】国土交通省Webサイト

■ 民間開発の促進

・交通結節点である金山駅のポテンシャルを最大限に活用し、働く、楽しむ、学ぶ、創造する、暮らす場として金山地区が選択されるよう、都市機能の高度化及び居住環境の向上に向け、都市再生制度の活用等により、市有地周辺における民間開発の促進を図ります。

<エリア防災計画における滞在者・来訪者の誘導の考え方>



- ① 発災直後は、安全確認がとれた建物においては屋内待機とし、その他は一時退避場所または、近隣の広域避難場所等へ誘導する
- ② 発災から6時間までの間は、徒歩帰宅可能者に対しては道路が混雑しないように順番に徒歩帰宅を支援し、帰宅困難来訪者に対しては建物の安全点検完了後に退避施設へ受け入れる
- ③ 発災後6時間から24時間までの間は、退避施設で退避し、帰宅に向けて他地区へ移動を開始する

【出典】金山駅周辺地区エリア防災計画(令和2年3月 金山駅周辺地区帰宅困難者対策協議会)をもとに作成